



# フレンズ

山梨県立かえで支援学校相談・支援通信 第35号 <平成22年3月1日発行>

※「フレンズ」は、かえで支援学校の校歌(杉本竜一氏作)です。本校HPにてお聴きください。

今年度もいよいよ、まとめの時期となりました。かえで支援学校の相談支援部でも今年度の総括を行い、反省点や改善点を明らかにして新年度をより実りあるものにしたいと考えています。

さて、学校(園)では、この時期に、卒業(園)式が行われます。学校(園)の全課程を学び卒業したことを祝福するとともに、次のステップに進む子どもたちへの激励の意味も多分に含まれていると思います。新たな世界に歩み出そうとしている子どもたちをしっかりと後押ししたいですね。

## 平成21年度かえで支援学校における相談支援活動の報告

かえで支援学校では、今年度も地域への相談支援事業として教育相談・教育的支援(来校・訪問)、研修支援、地域支援通信の発行などを行ってきました。そこで、今年度かえで支援学校の相談支援部で行った地域への相談支援活動の報告をしたいと思います。

### かえで支援学校相談支援活動について

(平成22年1月現在)

相談・支援内容	幼稚園・保育園(所)	小・中学校	高校	その他
電話・メール相談	4件	21件	1件	4件
来校相談	9件	52件	3件	5件
訪問相談及び支援	9件	11件	0件	0件
研修支援	1件	5件	0件	1件
通信(5回配布)	126校	92校	15校	34カ所

※来校相談は本校においていただいている相談、訪問相談は本校職員が訪問して相談や支援を行うものです。

※相談件数は保護者、学校関係者それぞれからの相談の合計です。

※学校説明会、オープンスクール、授業体験会、プレスクールの際の相談・支援は除いてあります。

ご覧の通り小・中学校の児童生徒についての来校相談が最も多くなっています。これは中学校や高校進学時の進路について本校を視野に入れた相談が多いためです。しかしながら近年は若干違った相談内容が多く見られるようになりました。それは、転学を視野に入れた相談です。小学校で6年間もしくは中学校で3年間を過ごしてから本校へ進路選択するのではなく、途中からの転学を希望するケースです。転学については慎重にそして十分な検討が必要だと思えます。しかしながら相談の中でそこに至るまでの経過を先生方や保護者の方から伺うと、とても残念に思うことが少なからずあります。児童生徒が誤学習や二次障害に至っているケースが多いからです。

特別支援教育は、「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの」です。周囲からのかかわりによっては、何でも自分の好きなように行動できると誤学習してしまい、自分の行動をコントロールする力を身につけられずいたため問題行動が多くなったり、叱られることが多く自己肯定感が持てずに不登校・引きこもりなどの二次障害に陥ってしまっている状態を見ると残念でなりません。

今年度の訪問相談及び支援の件数の合計は20件です。(その中には継続的にかかわらせていただいている相談もあります。)学校生活・日常生活や授業場面でのかかわり方や学習教材の工夫などを先生方や保護者の方へ提案させていただいています。提案を通して、幼児児童生徒の自立や社会参加に向けて先生方や保護者の方が適切な指導や支援ができるようサポートしたいと考えています。転学を考えるような状況に至る前に、まず本校にご相談ください。小・中学校において適切な支援を一緒に考えていきたいと思っています。

## よりよい連携のために～個別の教育支援計画の活用～

「個別の教育支援計画」の評価はもう済んでいますか？学校以外にも支援機関がある場合には、それぞれの支援機関からの評価も記入する必要があります。まだの場合は急いで対応してください。

さて、「個別の教育支援計画」は、連携ツールとして活用することで目的を達成します。つまり、年度の初めに児童生徒のみなさんや保護者の方の願いをもとに立てられた支援目標に、どれだけの支援機関が携わり、どのような支援にあたっているかわかる書類というわけです。ここで気をつけたいことは児童生徒が利用しているすべての機関が、この「個別の教育支援計画」に携わるわけではないということです。あくまでも支援目標の達成に向けて連携が必要な機関が対象となります。ですから支援目標の設定時に、どの機関と連携していくのかをはっきりさせ、場合によっては関係者による協議を行うことも必要となってきます。いずれにしても「個別の教育支援計画」は教育機関が中心になって作成するものです。支援目標や支援内容の設定、その評価と記載に関しては最後まで教育機関が責任を持って取り組まなければなりません。今年度の活用状況も含めてもう一度連携ツールを見直してみるのも良いかもしれません。

最後に「個別の教育支援計画」作成の対象は、障害のある幼児や児童生徒で、特別な教育的支援の必要な者です。通常学級に在籍する児童生徒であっても作成しなければなりません。＜コーディネーターの先生方ご注意を＞

（注）「個別の教育支援計画」とは、教育を中心に、医療、保健・福祉、労働等の関係機関が連携して、障害をもつ幼児・児童・生徒（以下、児童生徒）一人一人のニーズに応じた支援を効果的に実施するための計画であり、地域社会に生きる個人として、教育、医療、保健・福祉、労働等の関係機関による連携協力体制で支援をしていくためのツールです。（山梨県教育委員会『個別の教育支援計画の手引き』より抜粋）

※山梨県のHPに個別の支援計画も含め特別支援教育に関係するがわかりやすく掲載されています。

（<http://www.pref.yamanashi.jp/gakkosui/tokubetsushien/tokubetsushienkyouiku.html>）

さて、平成22年度にかえで支援学校に入学予定の幼児児童生徒の前籍校（園）との連携は、以下のように実施する予定ですので、ご協力をお願いします。なお入学・転学に伴う「個別の教育支援計画（原簿）」の学校間の移動につきましては、保護者の同意が必要です。必ず保護者の同意手続きを経た上での引継をお願いします。また、前籍校における文書の保存期間は3年と示されています。卒業した後の個別の教育支援計画（写し）の保管についても、よろしくお願いします。

### ■本校との引き継ぎについて

3月10日（月）～3月19日（金）にかけて、各学校（園）と本校との引き継ぎを予定しています。「個別の教育支援計画」を含む児童生徒の学習及び生活にかかわる全般について個別に引き継ぎを行いますので、各学校（園）の担任の先生は本校担当者までご連絡をください。なお不都合な場合はお申し出ください。

各担当者 { 小学部・・・島田陽子 中学部・・・松澤忍 高等部・・・荻原公子 }

※状況によって、4月に新担任との連携を再度させていただく場合もありますので、ご了承ください。

※ご不明な点は、教務部（望月）または各部の担当までお問い合わせください。

## 一旧107条本（附則9条本）についてご存じですか？

教科書には、いわゆる「検定本（文部科学大臣の検定を経た教科用図書）」や「☆本（文部科学省が著作の名義を有する教科用図書）」があります。しかしながら特別支援学校や特別支援学級ではこれらの教科書以外の本でも教科書として使用できます。旧学校教育法第107条に記載されていたので、今まで「107条本」と言っていた図書です。本校でも児童生徒の実態に合わせながらいわゆる旧107条本を採択してきました。この旧107条本（現行の学校教育法では、附則の第9条に記載されているのでこれからは附則9条本と呼ばれるかもしれませんが）には、児童生徒の実態に合ったとても良い図書がたくさんあります。ぜひご活用ください。ところで、本校の場合新入生の教科書採択に当たって、今まで採択してきた図書を見ながらおこないます。本校へ転入学のいる学校へは本校から教科用図書給与証明書（一般用図書）が送られていると思います。お早めに返送ください。

◆◆◆ この通信に関するお問い合わせは ◆◆◆



山梨県立かえで支援学校  
相談・支援部（い）

甲府市東光寺2-25-1（〒400-0807）

TEL 055(223)6355 FAX 055(223)6356

URL <http://www.kaedey.kai.ed.jp/>

E-Mail [sodan@kaedey.kai.ed.jp](mailto:sodan@kaedey.kai.ed.jp)  
（相談・支援部専用アドレス）



かえで支援学校

検索